

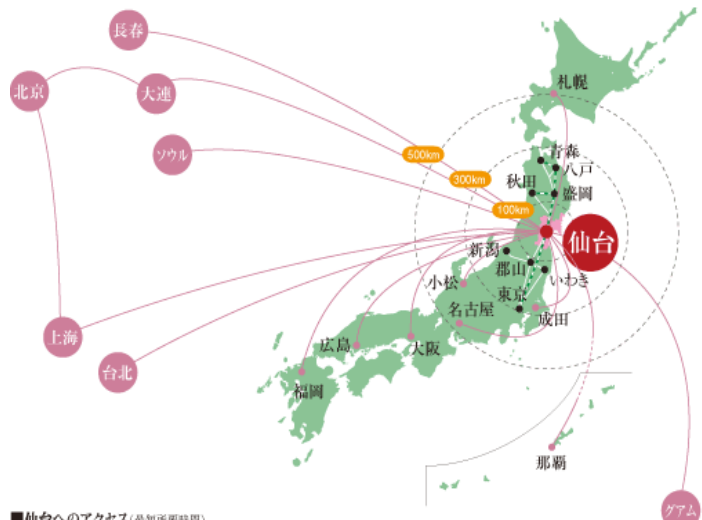
第一部

東日本大震災の交通に対する影響

平成24年2月22日

仙台市総合交通政策部長
岩 崎 裕 直

仙台市の概要



Data

面積: 788.09km²

人口: 1,045,903人

世帯数: 464,857世帯

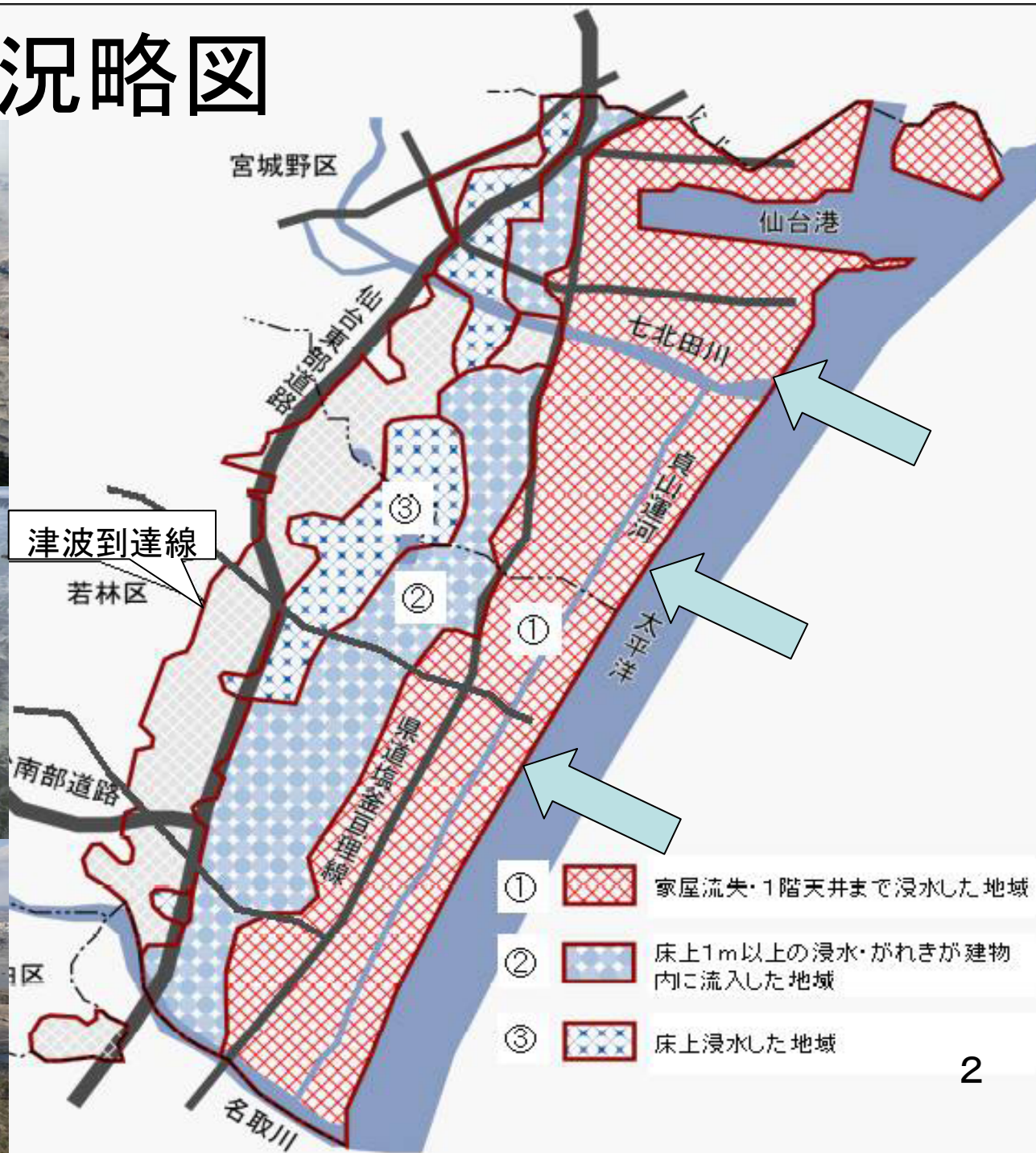
老年人口比率: 18.7%

鉄道駅: 46駅(駅前広場16)

路線バス停留所: 約1,500箇所



津波被災状況略図



主な宅地被災箇所分布図



被害状況(仙台市内)

◆ 人的被害(平成24年2月現在)

死者 704名(男性399名,女性305名)

行方不明者 33名

負傷者 2,269名

◆ 建物被害(平成24年2月現在)

全壊 29,290棟 大規模半壊 25,711棟

半壊 75,521棟 一部損壊 116,106棟

■ 被害総額(平成24年1月現在)

推計額 約1兆3,684億円

震災直後(市中心部)

仙台駅西口広場



仙台都心部



公共交通機関(鉄道)の被災と復旧



地下鉄南北線八乙女駅周辺



【復旧前】



【復旧後】

JR仙石線苦竹駅



【復旧前】



【復旧後】

JR東北新幹線仙台駅



【復旧前】



【復旧後】

震災後の交通手段

高速バス乗り場



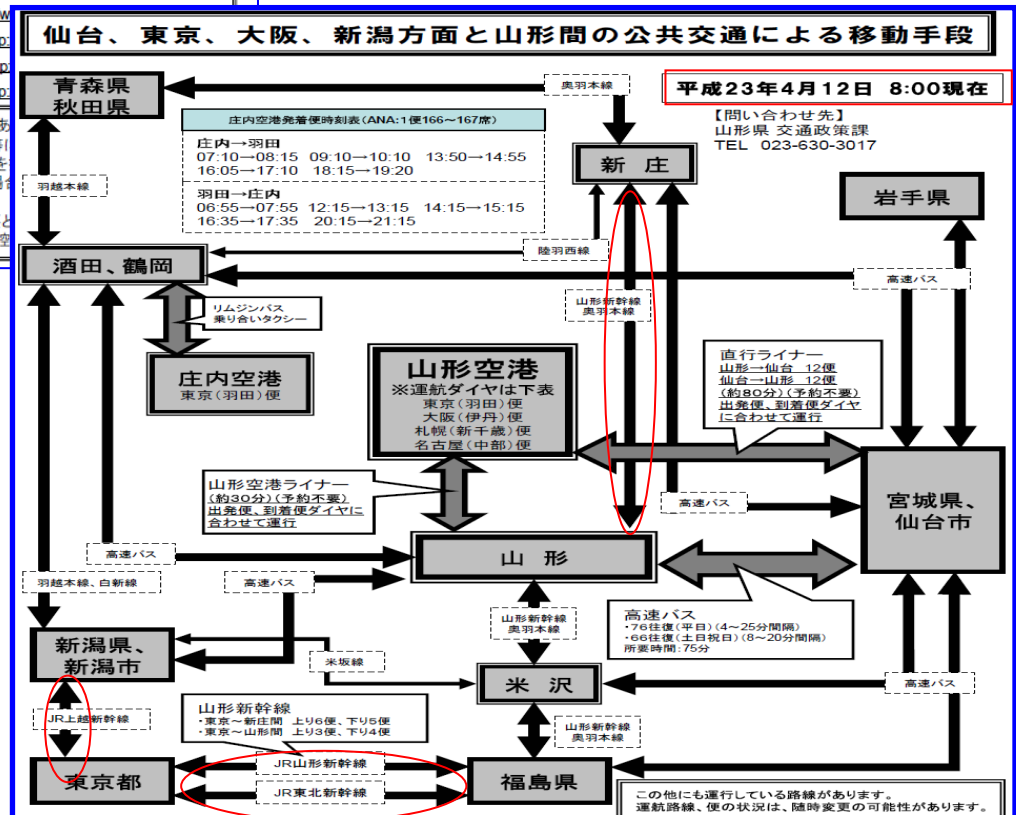
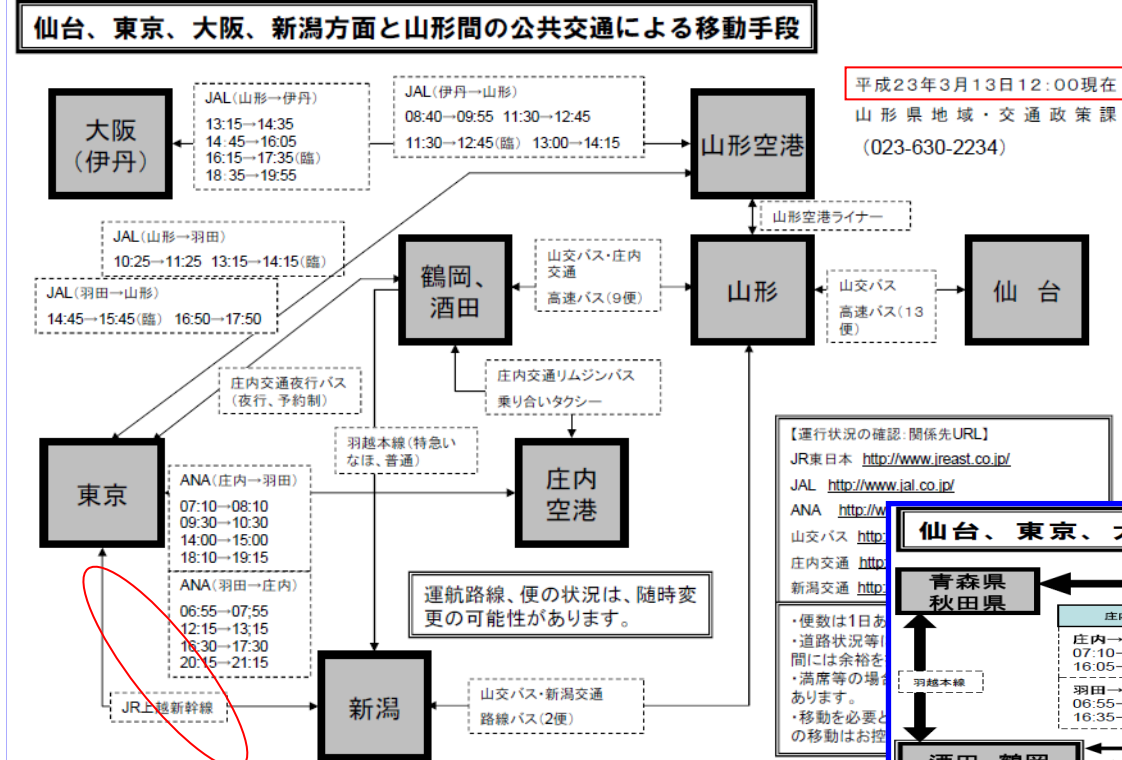
クルマの燃料確保(渋滞)



地下鉄代替バス輸送



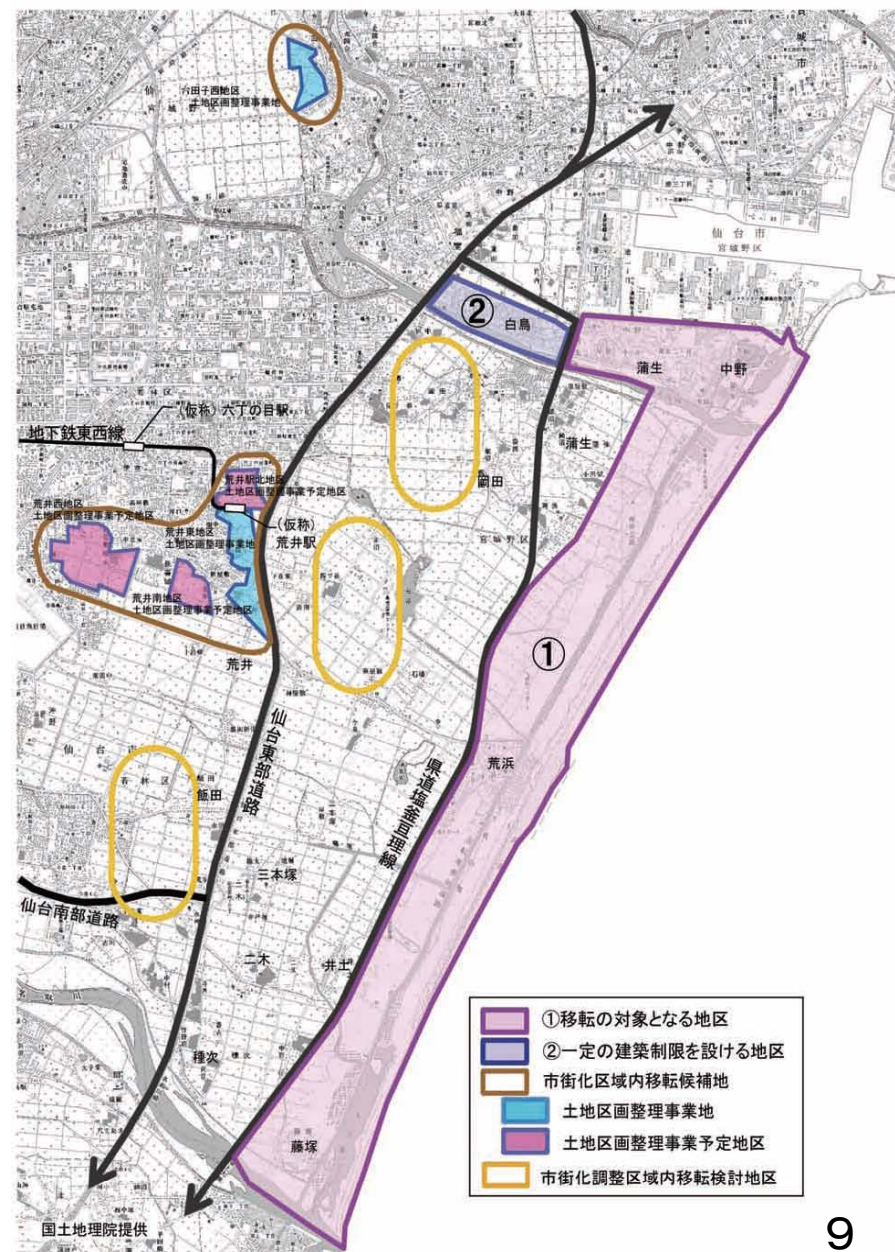
代替輸送と利用情報



課題① 応急仮設住宅

安全な住まいの確保と交通

- ①プレハブ仮設住宅(市内18箇所)完成1,523戸、入居決定1,507戸
- ②公務員住宅等
入居決定737戸
- ③借上げ民間賃貸住宅
入居決定8,520戸



課題② 自転車交通



河北新報12月16日



時事通信3月25日

仙台市震災復興計画策定

復興まちづくりにおける交通に関する取組み

①市民の命とくらしを守る「減災」まちづくり

- ・公共交通・道路ネットワークの強化
- ・広域交通ネットワークの整備

②「省エネ・新エネ」対応型まちづくり

- ・公共交通の利用促進

(利用促進環境の整備, 交通システムの省エネ化
さらに自転車利用しやすいまちづくり)

ともに、前へ 仙台

これまでご支援ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます



第二部

低炭素交通システムの構築に向けて

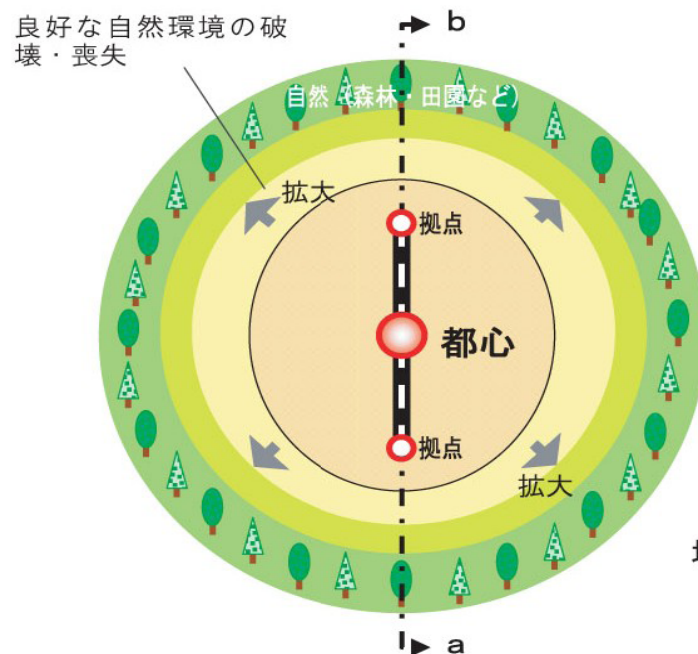
平成24年2月22日

仙台市総合交通政策部長
岩 崎 裕 直

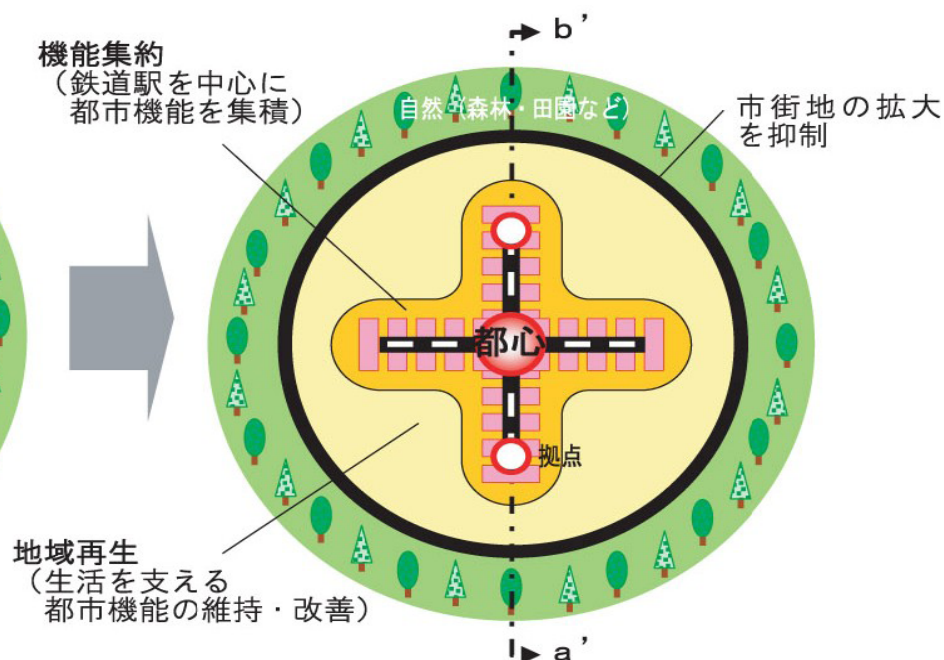
機能集約型都市構造のイメージ



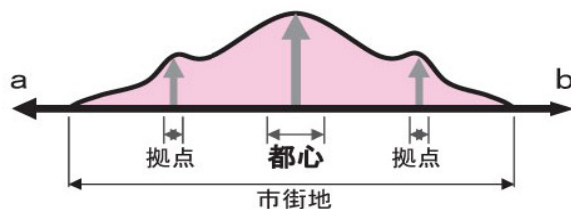
〔これまでの市街地形成のイメージ〕



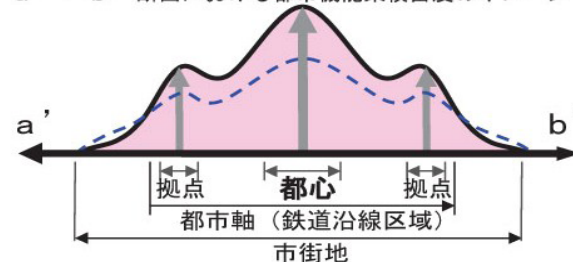
〔目標とする都市構造のイメージ〕



a - b 断面における都市機能集積密度のイメージ



a' - b' 断面における都市機能集積密度のイメージ



せんだい都市交通プランの策定



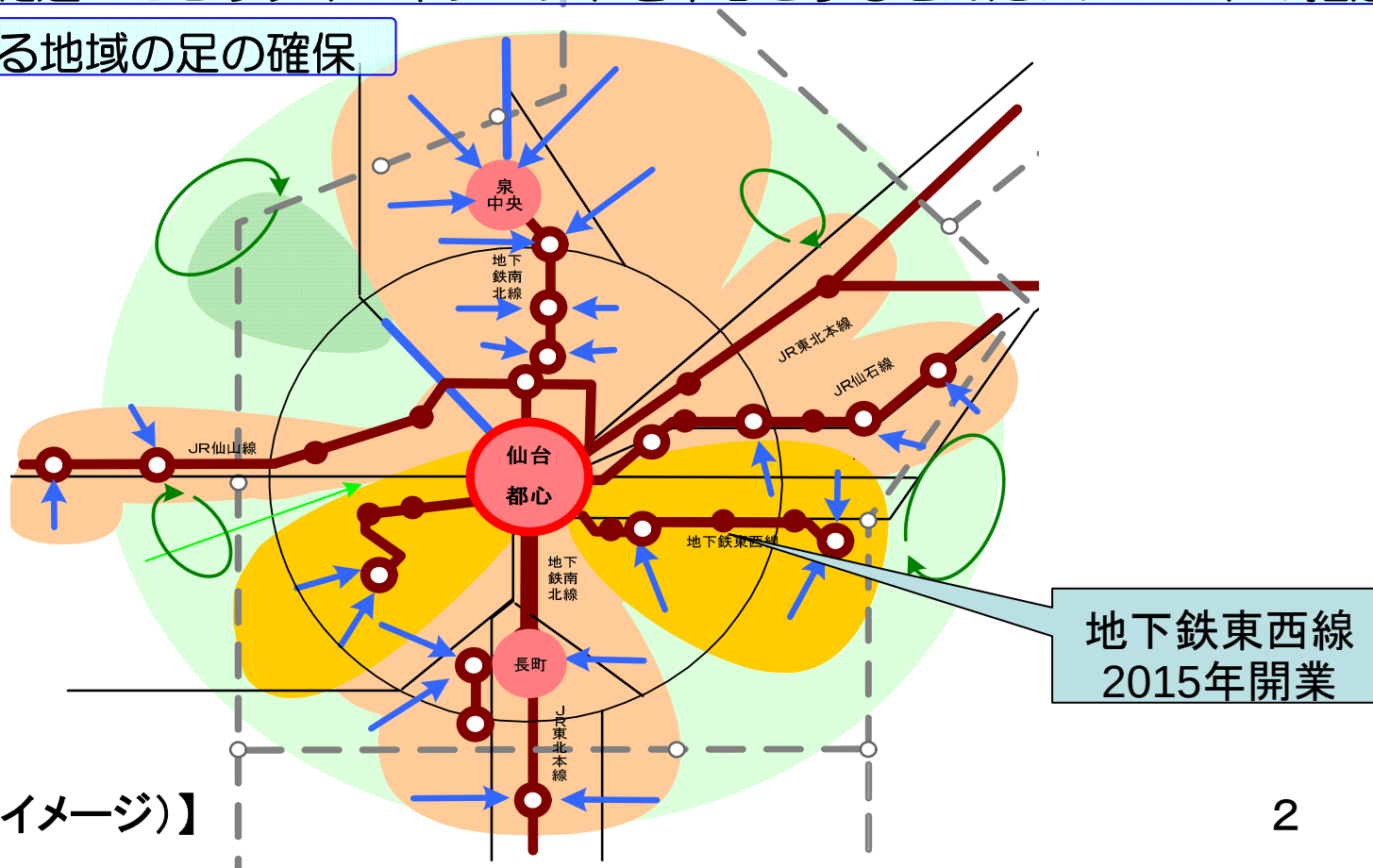
目標:公共交通の利便性向上により暮らしやすさを確保し賑わいのある機能集約型都市

将来の交通体系：公共交通を中心とした過度にクルマに依存しない交通体系の構築を目指す

主なソフト施策を紹介

公共交通利用促進へモビリティマネジメントを中心とするせんだいスマートの推進

市民協働による地域の足の確保



【将来の交通体系(イメージ)】

モビリティ・マネジメントの推進



「せんだいスマート」の取組み

(1) 若年層に対するモビリティマネジメント推進

- ①小学生への交通環境学習の取り組み
- ②大学生による公共交通(バス)マップづくり

(2) 転入者に対するモビリティマネジメント

その他パーク・アンド・ライドの推進や
時差通勤通学の推進